

コラム おおぞうれ くんぞうれ **大草連・葛草連の地すべり**

姫川支川の中谷川流域は地すべり地帯であり、過去にも度々地すべりによる災害が発生しています。

小谷村大字中土の大草連・葛草連では、明治20年(1887)や昭和58年(1983)に災害が発生し、近年では、平成7年(1995)に地すべりが発生しています。

また、地すべりの影響から葛草連にあった石碑群は神宮寺に平成2年(1990)に移転されました。

この地区に土砂災害が多い事は、「草連(ぞうれ、そうれ、ぞれ)という地名が、崩壊地や土砂の流出による傾斜地を表すということからもわかります(長野県砂防課)。」そして、**図2.50**にもあるように、少なくとも明治初期にはこの地名が確認できる事から、明治以前より度々崩壊や土砂流出が起きている事を知ることができます。

現在、大草連・葛草連地区周辺は、土砂災害警戒区域(地すべり)等に指定され、多くの対策が行われています。**図2.51**は大草連・葛草連の地すべり周辺の地形図です。地すべり変動の激化により、葛草連は全戸移転し、地区内にあった石碑群は神宮寺(寺の位置は**図2.4**、**図2.28**参照)に移設されました。



図2.50 北安曇郡中土村(明治初期)

(長野県立歴史館蔵)

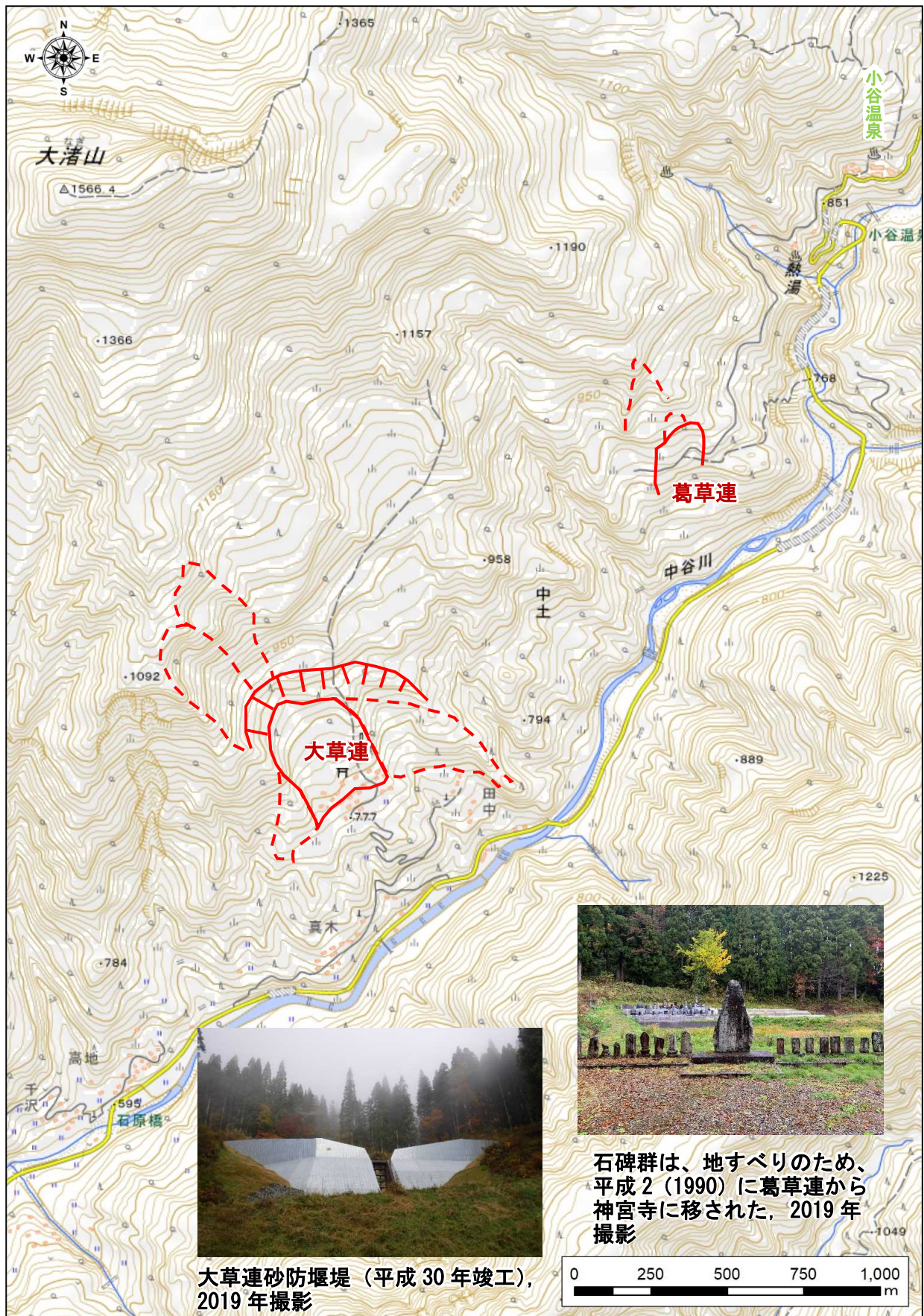


図 2.51 大草連・葛草連の地すべり周辺の地形図（地理院地図に加筆）